

# Port of Hachinohe

No. **41**  
Jan2015

---Maritime & Trade Report---

## ●今号の主な記事

■八戸 LNG ターミナル総合試運転開始

■「すごい!八戸港ガイドブック」発行

■八戸市海外経済協力員レポート(天津)

## 八戸 LNG ターミナル総合試運転開始 (本格操業 27年4月予定)

平成 27 年 1 月 8 日 (木) から、八戸港ポートアイランドに建設中の JX 日鉱日石エネルギー(株)八戸 LNG ターミナルの総合試運転が開始されました。

LNG を気化させたガスは、無色無臭で空気より軽く、燃焼時に硫黄酸化物 (Sox) が出ないなど、他の化石エネルギーと比べて環境負荷が低いことから、工場などでの燃料転換による環境への好影響と関連産業の集積が期待されています。

※ LNG は「Liquefied Natural Gas 液化天然ガス」の略です。天然ガスを -162℃ に冷やして液化すると、体積が 1/600 になります。また、都市ガスの原料や工場などのエネルギー源になります。



八戸港の新たな  
ランドマークに

14万キロリットルタンク(2  
基)は、高さ50m×直径80m)

東北最大の  
LNG 輸入基地

最大100万トン/年  
のLNGを供給

一般家庭約250万世帯分

お問い合わせ先  
八戸市商工労働部産業振興課  
TEL : 0178-43-9244

# 「すごい！八戸港ガイドブック」発行

八戸港国際物流拠点化推進協議会では、八戸港の魅力や機能・制度等について取りまとめた初の総合的なガイドブック「すごい！八戸港ガイドブック」を発行しました。

産業都市としての八戸市・八戸港の魅力や国際コンテナ定期航路の運航状況、多目的国際ターミナル・魚市場を含む港湾施設など、盛りだくさんの内容となっています。

本ガイドブックは、当協議会事務局に備え付けているほか、ホームページにも掲載しております。是非、ご覧ください。



表紙 & 裏表紙



八戸の観光・産業について紹介



← 国際定期コンテナ航路や国際フィーダー航路の内容も充実



八戸港を一望した港湾施設



それぞれの岸壁の利用状況を詳しく解説

## お問い合わせ先

八戸港国際物流拠点化推進協議会（八戸市商工労働部産業振興課内）  
TEL：0178-43-9244  
URL：<http://www.hi-net.ne.jp/~hppc/>

# 八戸市海外経済協力員レポート

八戸市は、平成 27 年 1 月現在、香港、中国の天津・上海、シンガポール、米国ワシントン州タコマ、ベトナム在住の 6 名に「八戸市海外経済協力員」を委嘱し、現地の出来事や経済状況をレポートしていただいております。また、八戸地域の企業等が協力員の在住都市を訪問する際には、協力員に現地事情の説明等をしていただけますので、ご希望の方は八戸市商工労働部産業振興課（TEL0178-43-9244）までご連絡ください（なお、海外経済協力員の日程等の都合により、対応できない場合もあります）。

## REPORT

### 天津レポート



#### 中国の“自動車”事情

葉 雲彪 氏  
三八五グループ中国駐在代表

自家用車は、今や中国ではごく普通の交通手段です。しかし、15 年前は個人所有の車はとて少なく、政府当局と少数の大企業しか所有していませんでした。車は非常に快適でスピードがある移動手段ですので、自家用車を持つことはまさに大富豪のシンボルであり、中国人の夢でした。

当時は自動車メーカーも少なく、フォルクスワーゲンと上海汽車の合併によるメーカーの他は小さな企業ばかりでした。年間生産数も十数万台といったところでしたが、自転車については、中国が世界に与える“自転車王国”のイメージどおり、天津の工場だけで 1 日に 10 万台もの生産が可能でした。

2001 年に中国が世界貿易機関（WTO）へ加入したことで、世界中の自動車メーカーが中国へ進出し始めましたが、規模はまだそれほど大きなものではありませんでした。経済成長によ

り国民の収入が増加したものの、自動車を購入するのは浪費であると思われており、非常に寒い冬でも人々は依然として自転車を使っていました。

2003 年の初めに SARS の嵐が巻き起こった際、人々は感染を恐れて公共交通機関を使うのをやめました。特に、中国人の子どもに対するスタンスは自動車業界に大きな影響を与えました。当時の中国は厳格な“一人っ子政策”を実施しており、各家庭は子どもを 1 人しか持てませんでした。都市部の家庭の子どもは、最寄りの学校ではなく、地元から遠く離れたより良い学校に通学していました。そこで、通学時の感染を防ぐために保護者が送迎用の自動車を買い始め、突如自動車市場に火が点きました。市場の自動車は根こそぎ買い占められ、その年の生産販売量は 400 万台を突破しました。

2008 年、アメリカから始まった金融危機の影響を受け、中国は 4 兆元の経済対策を打ち出しました。2009 年には自動車購入のための個人向けローンを奨励し、ついに中国は自動車時代に突入します。生産販売量は 2009 年に 1,300 万台、2013 年には 2,000 万台に達しました。

一方で、中国人の自動車への夢は、次第に悪夢へと変貌しています。自動車が引き起こす大渋滞や環境汚染などの問題が、ゆっくりと、しかし確実に現れてきているのです。

今回はここ 10 年の中国の自動車事情について紹介しました。機会があれば、また引き続き寄稿させていただきたいと思えます。

## 青森県農林水産物輸出促進協議会水産部会 海外販売促進事業（ベトナム）報告

八戸港国際物流拠点化推進協議会では、平成 26 年 11 月 2 日～4 日にかけて、青森県農林水産物輸出促進協議会が主催するベトナム・ホーチミン市における県産品の販売促進活動に参加しました。

ホーチミン市は、ベトナム最大の都市で、南北統一後も同国で最も重要な経済的中心地です。

販売促進活動を実施するにあたり、日本貿易振興機構（ジェトロ）ホーチミン事務所など現地関係機関からの情報収集や、現地輸入業者等との意見交換および商談等を行いました。

また、平成 26 年にオープンしたイオンモールベトナムでは、八戸市海外経済協力員でありイオンモールベトナムリーディングデパートメントゼネラルマネージャーである中谷直人氏の案内により、八戸市が平成 27 年度に計画している青森フェア開催に向けて、現地における水産物の販売状況等を視察しました。

ベトナムは、経済発展が著しく、今後の成長が期待できる市場であることから、今後も地場企業の販路開拓および八戸港を利用した輸出促進を図っていきます。



水産物が販売されている市場の様子



イオンモールベトナム中谷氏(左)及び関係者より説明を受ける会員(右)

# Let's Go タコマ!! Let's Go シアトル!!

八戸港は海外の港と航路以外でも繋がっていることをご存知でしょうか？

平成7年にアメリカ合衆国ワシントン州のタコマ港と経済貿易協定を締結し、また、平成12年にはフィリピンのマニラ港との姉妹都市提携が結ばれました。

今年はタコマ港との協定締結から20年目の節目であり、「八戸港・北米交流ミッション2015」では、6月30日にタコマ市内にて調印式とパーティを開催予定です。

更に、これに先立ち、シアトルに本社のある日系スーパーの<sup>うわじまや</sup>宇和島屋にて、青森フェアを開催し、青森県産の農水産品、加工品等を展示販売する予定です。

ミッションではこの他に、コンテナ取扱量世界第18位（2013年）のロスアンゼルス港の視察なども計画していますので、皆さん御参加ください。



平成17年の調印式の様子



両港関係者による記念撮影

## 【八戸港・北米交流ミッション2015】

日程：平成27年6月27日（土）～7月4日（土）の7泊8日

渡航先：シアトル・ピュアラップ・タコマ・ロスアンゼルス

主催：八戸港国際物流拠点化推進協議会・八戸市

その他：参加者の募集は、平成27年2月頃を予定しています。

## 八戸港ポートセールスミッション2014

八戸港国際物流拠点化推進協議会では、平成26年10月13日（月）～18日（土）の6日間にわたり、韓国・ソウル特別市と中国山東省青島市を訪問しました。

韓国では、八戸港にコンテナ定期航路を就航している南星海運の本社を訪問したほか、八戸港をPRする「八戸港レセプション」を開催しました。八戸港レセプションには現地の海運関係者など120名の方々に参加いただきました。また会場内で利き酒イベントを行い大変盛況でした。また、八戸港の港湾整備の方向性や貿易振興の参考とするため、2013年のコンテナ取扱量世界第7位の青島港を視察しました。

また今回のミッションでは、海外販路拡大を目指す地元企業も渡航し、現地での企業訪問・商談を行いました。



八戸港レセプションにおける鏡開きの様子



青島港視察の様子

# ハワイで「第2回 AOMORI フェア」開催！

平成 26 年 10 月 7 日～12 日の 6 日間、米国ハワイ州ホノルル市の日系会員制スーパーマーケット「マルカイ・ホールセールマート」と「マルカイ・マーケットプレイス」の 2 店舗で、前年に続き「第 2 回 AOMORI フェア」を開催しました。

（株）ファーストインターナショナル（八戸市）と、青森ご当地グルメ海外展開実行委員会（会長：八戸せんべい汁研究所 田村暢英所長）が中心となり、青森県内の食品メーカー・団体 15 社、ご当地グルメ 4 団体（青森おでんの会、やきそばのまち黒石会、十和田バラ焼きゼミナール、八戸せんべい汁研究所）、関係 4 市、津軽三味線奏者（黒石市在住の渋谷幸平氏）が参加し、県産品の販売・試食提供とご当地グルメのお振る舞いを行い、青森県の食文化を PR しました。

事前に、地元の日本語ラジオ局「KZOO RADIO」で今回のフェアを特集した番組を放送したこともあり、会場は前年を上回る賑わいを見せました。AOMORI フェアを楽しみにしていたリピーター客も多く、前年の AOMORI フェアで購入した商品を「指名買い」する様子も見られ、期間中は、これまで同店で実施したご当地フェアの中でもトップクラスの売上を記録しました。

ハワイでの AOMORI フェアは今年も同店で開催される予定です。



店頭でのお振る舞いに並ぶ地元客



店内での試食販売

## マレーシア販路拡大事業実施

八戸市は、東南アジア向け青森県産品の販路拡大事業の一環として、平成 26 年 9 月 7 日（日）～13 日（土）の期間、マレーシアの首都クアラルンプールにおいて、販路拡大事業を行いました。平成 26 年度は八戸市として本格的に東南アジアにおける販路拡大事業の初年度となりました。

今回の事業に伴い八戸地域の企業 2 社が現地に渡航し、農水産品の輸出拡大に向けた企業訪問や商談、市場視察・現地八戸市関係者との懇談を行いました。

マレーシアでは回転寿司店が多く、日本食が大変人気となっています。また、国民の 3 割を占める中華系の国民の所得はマレーシア全体の所得平均より高く、日本食の有力な購買層です。また、中華系の国民の多くはイスラム教徒ではないため、ハラール認証（イスラム教徒が食することができるものであることの証明）を取得する必要がありません。

今回の事業で得た人的ネットワークと情報を活用し、今後も人口増加が続き、経済成長著しい東南アジア向けに事業を展開してまいります。



肉類が販売されている市場の様子



ハラールではない食品も  
「ノンハラール」食品コーナーに陳列

## 香港フードエキスポに出展

八戸市では、地場産品の海外販路拡大、青森県産食品の安全性のPRのために、平成26年8月14日（木）～16日（土）の3日間、香港での「フードエキスポ2014」に出展いたしました。

この展示会はアジア有数の国際食品見本市で、今回は26の国と地域から延べ1,182社が出展、62の国と地域から20,000人を超えるトレードバイヤーが来場しました。

八戸市のブースには、八戸地域の3社が出展し、来訪したバイヤーとの商談や、一般客への試食提供等を実施しました。出品商品はどれも好評で、試食は飛ぶようになり、多数のバイヤーが足を止めて商品の詳細説明を求めていました。早速商談がまとまり、新たな海外取引に向けて動き出した企業があるなど、着実な成果がありました。

今回の経験・ネットワークを活かし、関係機関と協力して、八戸港を通じた更なる海外販路拡大、貿易振興に取り組んで参りたいと考えております。



八戸市出展ブースの様子



展示会場になだれ込むバイヤー等

## 八戸セミナー 2014 開催

八戸市、八戸港国際物流拠点化推進協議会、八戸市企業誘致促進協議会は、八戸港の利用促進及び当市の立地環境の優位性を中部圏及び首都圏の企業にPRするため、平成26年7月22日に名古屋市、翌23日に東京で「八戸セミナー2014」を開催しました。

セミナーには、船会社はじめ荷主や関係者など延べ398人（名古屋109人、東京289人）の皆様にご出席いただきました。

開催にあたりまして、主催者から八戸市及び八戸港の概要をはじめ、企業誘致や八戸港の利用促進を図るための各施策についてご紹介しました。

その後、立地企業の皆様からのご講演として、名古屋会場では、高周波鋳造㈱の取締役本社工場長 種市勉氏から、東京会場では㈱大泉製作所の社長室長 阿部清氏から、また両会場におきましてファンシー・ジャパンの代表 矢田公作氏、同社のプロジェクトマネージャー 高井志保氏、サラウンド㈱の代表取締役 安川修平氏、加藤技術士事務所の技術士 加藤欽氏、八戸IT・テレマーケティング未来創造協議会の幹事長（ツールジオ㈱の代表取締役社長）鶴直人氏から、それぞれ八戸進出のメリットや立地環境についてご登壇いただきました。

情報交換会では、セミナーの内容を踏まえた積極的な意見交換・交流を通して、世界に開かれた八戸市・八戸港の魅力を個別にPRし、今年の八戸セミナーが幕を閉じました。



小林八戸市長からの概要説明



東京会場の様子

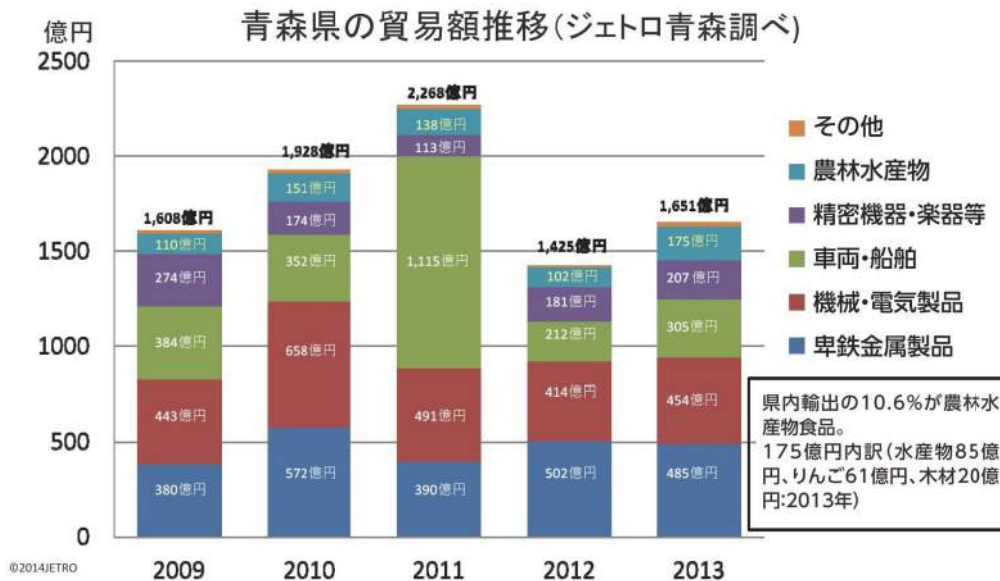
# 青森県の輸出推移について

日本貿易振興機構(JETRO)  
 青森貿易情報センター  
 TEL 017-734-2575  
 FAX 017-773-2877  
 〒030-0802 青森市本町1-2-15 青森本町第一生命ビル5階

前号(2014年7月発行)にて、農林水産物の輸出推移をご紹介しましたが、その際の数字は農水産物でありました点、この場を借りて誠に恐縮ですが、訂正とお詫びを申し上げます。

青森県の2013年の輸出は約1,651億円で、1番大きなシェアが卑鉄金属485億円、2番目が機械・電気製品454億円、3番目が車両・船舶で305億円、4番目が精密機器・楽器等207億円、となっています。農林水産物は5番目のシェアで、下記の表の通り推移し、2013年は約175億円と、青森県輸出戦略の目標である年210億円ペースに迫る勢いとなりました。りんごの輸出が60億円と好調であったことと、水産物も85億円に達し、韓国の禁輸措置が依然としてあるものの、震災前の2010年の69億円と比べて大きく伸びています。木材関係は20億円の輸出がありました。

2014年は今後アンケート調査を実施することになりますが、りんごは、円安効果もあり、輸出の更なる伸びが期待されています。詳細に関心がある方は、是非お気軽にお問い合わせ願います。



## 八戸港の貿易概況報告(平成26年1月~11月)

※資料:八戸税関支署発表の貿易概況(八戸港・むつ小川原港・久慈港)から抜粋

### 平成26年1月~11月の貿易速報値 (金額単位:千円)

#### 輸出

品名	単位	今年累計		対前年比 累計%	
		数量	価格	数量	価格
魚介類及び同調製品	MT	20,440	2,824,441	83.7%	105.7%
原皮及び毛皮(未仕上)	MT	3,588	631,861	79.0%	82.6%
鉄鋼くず	MT	23,649	939,620	87.7%	92.9%
有機化合物			414,759	-	129.4%
鉄鋼	MT	153,508	38,317,161	100.1%	109.8%
非鉄金属	MT	1,385	302,779	66.2%	82.1%
一般機械			37,614,609	-	93.3%
船舶類	NO	14	21,985,711	140.0%	72.3%
その他			17,908,795	-	601.0%
合計	-		120,939,736		106.3%

#### ●コンテナ貨物通関本数

	本数累計	前年比	前々年比
輸出	7,244 TEU	84.9%	82.4%
輸入	9,949 TEU	106.7%	108.8%
合計	17,193 TEU	96.3%	95.8%

#### ●月別貿易額 比較推移

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
前年比(対25年)	89.7%	77.1%	107.0%	149.7%	108.2%	204.2%	117.4%	116.3%	105.4%	136.1%	103.8%
前々年比(対24年)	146.8%	99.1%	67.6%	218.8%	109.2%	214.9%	217.3%	102.9%	130.9%	143.8%	113.2%

#### 輸入

品名	単位	今年累計		対前年比 累計%	
		数量	価格	数量	価格
魚介類及び同調製品	MT	14,501	4,753,528	137.8%	121.8%
小麦及びメスリン	MT	24,788	802,965	36.7%	38.3%
とうもろこし	MT	814,574	21,636,435	107.3%	89.1%
こうりゃん	MT	91,163	2,619,930	41.3%	38.3%
植物性油かす	MT	225,255	14,374,779	112.4%	125.5%
木材			960,067	-	86.8%
粗鉄物	MT	136,560	1,538,198	129.4%	100.2%
ニッケル錠	MT	2,552,505	21,919,453	91.2%	127.2%
鉛錠	MT	40,655	6,500,313	124.5%	145.7%
亜鉛錠	MT	136,961	9,525,110	96.6%	109.0%
非鉄金属くず	MT	17,935	1,074,915	88.9%	105.2%
石炭・コークス・練炭	MT	727,545	9,307,408	99.0%	92.8%
肥料	MT	66,565	3,590,637	309.9%	327.5%
その他化学製品	MT	15,308	1,195,174	101.8%	114.8%
ウッドチップ	MT	649,326	14,128,463	104.7%	106.2%
織物用糸・織物			344,491		89.1%
金属製品			1,620,125		103.0%
一般機械			1,250,709		68.2%
電機機器			8,557,638		371.5%
再輸入品			1,051,759		314.1%
その他			39,744,611		258.6%
合計			166,496,708		128.1%

	コンテナ航路	船社名	集荷代理店	寄港間隔	主な寄港地
外航	中国・韓国航路	南星海運(株)	八戸港湾運送株	週2便 (水・金)	《寄港地》 韓国(釜山、光陽、蔚山、木浦)、中国(上海、天津新港、大連、青島、寧波) 《接続地》 中国、ベトナム、欧州、北米、南米、豪州他
	北米航路	WSL (Westwood Shipping Lines) (株)横浜コンテナライン	八戸通運(株)	-	《寄港地》 アメリカ(シアトル)、カナダ(バンクーバー)、釜山
内航	国際フィーダー航路	井本商運(株)	八戸港湾運送株	週1便(金)	《寄港地》 横浜・苫小牧・仙台 《接続地》 世界各港
		鈴木海運(株)	八戸港湾運送株	週1便(金or土)	《寄港地》 東京・横浜・仙台・苫小牧 《接続地》 世界各港
		鈴木海運(株)	八戸港湾運送株	週1便(金)	《寄港地》 清水・横浜・東京・苫小牧・大船渡 《接続地》 世界各港

主な寄港地～八戸港の所要日数(最短)

寄港地	所要日数(日)	
	輸出	輸入
釜山(韓国)	4	5
光陽(韓国)	5	※
蔚山(韓国)	3	※
基隆(台湾)	10	6
台中(台湾)	15	7
高雄(台湾)	12	12
香港(中国)	10	14
大連(中国)	10	10
青島(中国)	12	9
上海(中国)	7	10
天津新港(中国)	9	12
寧波(中国)	8	9
蛇口(中国)	16	13
シンガポール	17	24
レムチャパン(タイ)	18	17
マニラ(フィリピン)	27	24
ホーチミン(ベトナム)	15	20
ハイフォン(ベトナム)	14	15
タンジュンプリオク(インドネシア)	16	16
ムンバイ(インド)	25	25
ポートクラン(マレーシア)	18	18
ドバイ(UAE)	28	22
タコマ(米国西岸)	21	21
ロングビーチ(米国西岸)	16	18
シアトル(米国西岸)	21	21
ニューヨーク(米国東岸)	29	22
バンクーバー(カナダ)	23	19
ブリスベン(オーストラリア)	31	21
オークランド(ニュージーランド)	40	28
サウサンプトン(イギリス)	29	35
ルアーブル(フランス)	30	35
ブレーメルハーフェン(ドイツ)	32	35
ハンブルク(ドイツ)	43	44
ロッテルダム(オランダ)	41	42
アントワープ(ベルギー)	41	49

※光陽・蔚山(韓国)については、釜山にまどめた後に輸入されます。

海上コンテナ輸送の御用命は「八戸港国際物流拠点化推進協議会」加盟の各社へ

八戸通運株式会社(海運営業所)	TEL:0178-29-0202	FAX:0178-20-3281
八戸港湾運送株式会社	TEL:0178-29-3177	FAX:0178-29-3119
新丸港運株式会社	TEL:0178-20-2321	FAX:0178-20-2353
八戸運輸倉庫株式会社	TEL:0178-28-2401	FAX:0178-28-6976
三八五流通株式会社	TEL:0178-52-7755	FAX:0178-52-7751
日本通運株式会社八戸支店	TEL:0178-20-3040	FAX:0178-20-3154
ナラサキスタックス株式会社八戸支店	TEL:0178-73-9220	FAX:0178-73-9225
株式会社青森銀行・株式会社みちのく銀行・青い森信用金庫 青森県・八戸市・八戸商工会議所・八戸港振興協会		



## みなと通信

八戸港では東日本大震災を受け、「八戸港復興会議」において港の復旧・復興に取り組んでいくため、以下の3項目からなる「八戸港復旧・復興方針」を策定しました。

- Ⅰ. 早期かつ適切な港湾物流機能の復旧。
- Ⅱ. ハード・ソフトを合わせた総合的な津波・地震防災対策。
- Ⅲ. 新たな取り組みによる港の復興。



八戸港の災害復旧工事は平成25年度に完成し、同年度からは防潮堤等、防災・減災対策を総合的に検討し、それらの効果と必要性を検証した上で、復興期間内に「防護ライン」の整備を推進することとしています。

防護ライン事業の概要ですが、①八太郎4号埠頭及び河原木2号埠頭での防潮堤の整備。②八太郎1号埠頭での重機避難場所としての埠頭用地高上げ。③八太郎1号～3号埠頭背後にある八太郎緩衝避難緑地での防潮堤の整備及び重機避難場所としての緑地の高上げ。④八太郎2号埠頭での受変電施設の津波防護対策。⑤河原木地区での漂流物防護対策。などがあります。

このうち①の八太郎4号埠頭及び河原木2号埠頭での防潮堤の整備について、平成26年12月に入札を行い、新年早々に着工する予定です。

青森県三八地域県民局 地域整備部 八戸港管理所  
TEL:0178-21-2280 FAX:0178-21-2370

### 編集後記

私事ではありますが、昨年4月からの赴任をきっかけに地元を離れ、八戸市で生活するようになり、早1年を迎えようとしています。

八戸港の周辺には、金属精製業や製紙業を含め、多様なものづくり企業が立地しており、こういった企業が八戸市の産業を支えているんだと日々刺激を受けています。(私の地元は農業主体の街なので、ものづくり産業は少ないのです。)

また、このような企業が利用している八戸港を、さらに他の企業にも利用してもらえるよう、青森県内や首都圏の企業にPRしています。

生活面では、水産物はもちろんのこと、意外にも(?)果物、野菜等の農産物も豊富で驚きました。今の季節は、郷土料理のせんべい汁で心身ともに温めています。

まだまだ不慣れなことが多く、職場の方々にはお世話になりっぱなしですが、少しずつ業務を身につけ、八戸の生活を満喫していきたいです。

※航路情報や寄港地毎の所要日数等は、やむを得ず変更になる場合がございます。詳細は各代理店へご確認をお願いします。



八戸港国際物流拠点化推進協議会 Hachinohe Port Promotion Commission

〒031-8686 青森県八戸市内丸一丁目1-1 八戸市商工労働部産業振興課内

TEL:0178-43-9244 FAX:0178-43-2256 e-mail: hppc@hi-net.ne.jp www.hi-net.ne.jp/hppc



(株)八戸港貿易センター Hachinohe Port Trade Center Co., Ltd.

〒039-1162 青森県八戸市豊洲3-9 八戸港貿易センター3階

TEL:0178-72-1505 FAX:0178-72-1503 e-mail: mail@hptc.co.jp www.hptc.co.jp